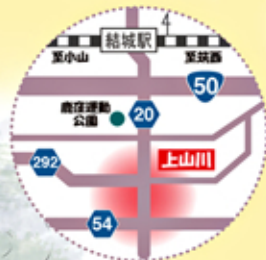




冬号

ユネスコ無形文化遺産
「結城紬」フクロウ
(結城紬の切れ端で作る)
制作：小山市福良 岩淵静子民話を
楽しむ民話
ゆうき

狐の嫁入り

文・結城市教育委員会
挿絵・佐々木 明この民話の
舞台は、
上山川のほとり、
のどかな……じいちゃん、
こんなお話を
まだのっぺり
してんの？

むかし、むかしのお話です。
といっても、今から六十年ほど
前のお話です。

結城の健田神社が、いくつか
に分かれていた頃のことです。

今の上山川かみやまがわのあたり、田んぼ
の中に小さなお宮があり、大き
なけやきの木が一本のっぺりと
立っていました。



人々のうわさでは、夜その
近くをとおる人は、よく狐に
だまされたと言っています。

ある晩のことです。風が少
し出てきました。竹やぶがか
すかにゆれています。その竹
やぶの向こうに日もすっかり
沈みました。

遠い田んぼの中、それは、
ちょうど、あの大きな木のあ
たりでしょうか。

★わらしべ協賛店「七五引換手形」
有効期限：2011年
1月わらしべ発行～
2月28日まで

それは、それはきれいなちょうちんが十も十一もぎょうぎよく並んでいるではありませんか。

そして、そのちょうちんの列は、遠くまた遠くの田んぼの方へ動いていきます。

まるで、夢をみているようです。そのちょうちんは消えてはつきついでには消えているのです。

そして、その場所には、たびたびきれいなちょうちんのぎょうぎつがみられたそうです。

きょうもまた、田んぼの中にひっそりとお宮が建っています。お宮のまわりで遊んでいる子どもたちの元気な声が聞こえてきます。

のっそりと立っているけやきの先にはカラスが一羽カア、カアとながっています。



村の人がいうには、田んぼのぎょうぎつは、

「あれが、狐の嫁入りだ。」
というのです。

そのちょうちんの点滅
(ついたり消えたりするこ
と)は狐の呼吸たとか

……。

その頃の老人たちがよく子どもたちに話してくれたものでした。

いろどり豊かなはんでんを羽織って(着て)気取った歩き方をする老いたきつねを先頭に、着ざった花嫁ぎつねをたくさんのきつねが、はやしなから守りつつ田んぼのすーっと遠くまで続いていったと。

おしまい

その狐たちが、どんななかっこうで歩いてきたのか。